

中央区自治協議会 地域と学校部会



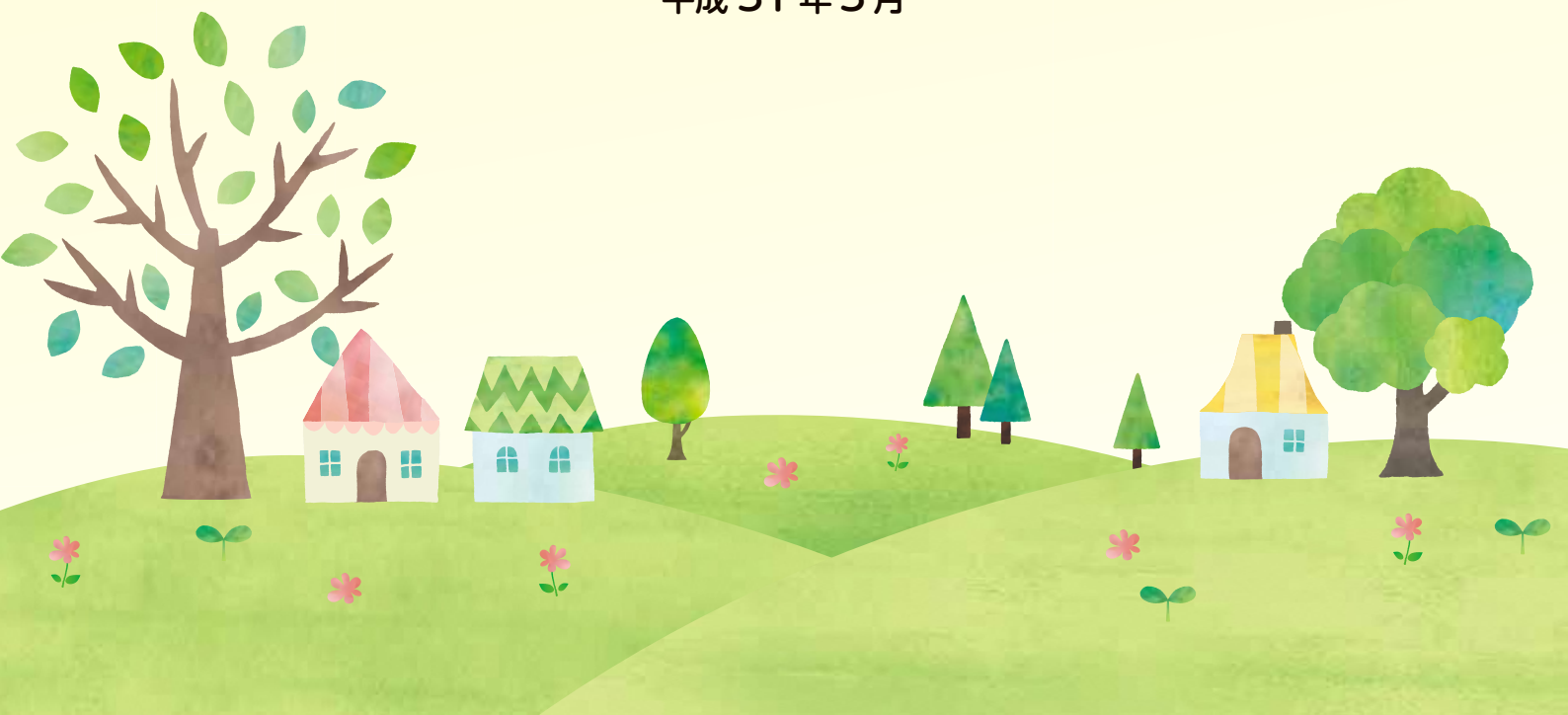
子どもが真ん中!



地域と学校でつくる学びの未来

提案型協働事業
実施報告書

平成31年3月



＊はじめに ～提案型協働事業の意義～

中央区自治協議会 地域と学校部会 座長 井上 基之

平成29年より中央区自治協議会に「地域と学校部会」が新たに創設されてから、早いもので2年が経過しました。この間、部会メンバーは試行錯誤しながら、子どもたちを真ん中にした地域と学校の連携や協働のあり方を模索して参りました。

自治協議会の委員である部会メンバーは、地域コミュニティの代表者であり有識者ではありますが、現在進行形の地域の課題を全て把握しているかと言えばそうではありません。

「地域の課題は、当事者が一番知っている」そうした思いから議論を重ねて辿り着いたのが、2年間の継続事業として当部会が実施した「提案型協働事業」という形でした。

この2年間でご提案いただいて実施に至った事業は10件に上ります。多種多様な地域課題の解決に向け、部会メンバーが地域と学校、そして行政との繋ぎ役となり、時にはノウハウを提供するなど「協働の要」としての機能を存分に発揮することができたのではないかと考えております。

本報告書に掲載されている事業は、新潟市市民協働課が所管する「地域活動補助金」を活用して実施できる内容も多く、是非多くの地域で参考にさせていただければ幸いです。

また、これまでは「自治協議会提案事業」として、自治協議会の委員が直接事業の担い手となり、そのためだけに時間と労力を割かれるという課題があり、それを見直さなければならないという問題意識もありました。本来、自治協議会はその名のとおり「協議」の場であり、条例上に定められているように「市長その他の市の機関により諮問されたもの又は必要と認めるものについて、審議し、市長その他の市の機関に意見を述べることができる。」（新潟市区自治協議会条例第7条第2項）といった役割を果たしていかなければなりません。

次年度から自治協議会のあり方が大きく変わる中、地域課題を解決するためのモデル事業を検討する場合など、地域コミュニティや各種関係団体が主体となる「提案型事業」の形を取り入れることで、区内における事業の水平展開に繋げていくことも可能となるのではないかと考えます。

そして、提案型事業の実施と並行して、自治協議会の認知度向上を促進し、自治協議会が「協働の要」としての機能を果たしていくことで、「地域と共に育つ分権型政令市」の実現に繋がっていくと確信しております。

結びに、当部会の2年間の取り組みが自治協議会の今後の運営のヒントとなること、そして本事業のタイトルでもある「子どもが真ん中！地域と学校でつくる学びの未来」に繋がっていくことをご祈念申し上げ、巻頭の言葉とさせていただきます。

*募集チラシ 平成29年度

平成29年度 中央区自治協議会「地域と学校部会」提案事業



総事業費 100万円 (実施事業数未定)

自治協議会委員がサポート!

区役所や学校との話し合いを仲介

事業継続や展開に向けた相談

ノウハウの提供や講師の紹介

etc...

何でもご相談ください

提案型協働事業

●想定対象者

コミ協、新潟市中央区内の小中学校、
地域教育コーディネーター、公民館など

大募集!!

たとえば
こんな取組みに...

空き家やコミセン
を利用して
**こども食堂を
始めたい!**



<自治協によるサポートの例>

- ・こども食堂開設経験者によるセミナー謝礼金
- ・食材の手配方法
- ・広報手段の紹介

学校や公民館、
図書館と連携して
**子どもたちの
居場所を
つくりたい!**



<自治協によるサポートの例>

- ・居場所づくりに必要な消耗品の購入費用
- ・居場所づくりのノウハウの提供

空き教室や公民館、
ひまわりクラブで
**将棋などの
昔遊びを
普及したい!**



<自治協によるサポートの例>

- ・昔遊びに必要な道具の購入費用
- ・指導者に支払う謝礼金や会場費
- ・指導者や昔遊びグループの紹介

※平成29年9月1日以降に開始し、平成30年3月末日に完了する事業に限ります。

※取り組み可能なものから順次実施します ※書類審査があります

＊提案型協働事業一覧

事業名：小中学生のための将棋教室 …………… P 5・6

実施主体：山潟囲碁・将棋クラブ

事業名：親子でゴスペル！ …………… P 7・8

実施主体：光のページェントFamily ゴスペルクワイヤー

事業名：小さな光の美術館 …………… P 9・10

実施主体：笹口小学校 地域教育コーディネーター

事業名：子どもプログラミングチャレンジ in 白山 …………… P11・12

実施主体：白山小学校ふれあいスクール「かがやきランド」

事業名：桜が丘プレミアムフライデー …………… P13・14

実施主体：桜が丘小学校 地域教育コーディネーター

事業名：子どもと創る四つ葉地域交流事業 …………… P15・16

実施主体：上所小学校 地域教育コーディネーター

事業名：子育てサロン＆茶の間 …………… P17・18

実施主体：みんなで子育てほっとカフェ

事業名：アート活動を通じた障がい者と小中学生の交流 …………… P19・20

実施主体：Magical Rainbow

事業名：地域みんなが見守り隊 …………… P21・22

実施主体：白山小学校こども見守り隊

事業名：新潟じまんたんけんたい …………… P23・24

実施主体：青陵大学COMECCO☆(こめっこスター)



※上記の他、協働に至らなかった事業について、
P 25にまとめて掲載してあります。

＊事業名： 小中学生のための将棋教室

申請者(実施主体)：山瀧囲碁・将棋クラブ

実施日時：平成29年12月10日・17日 平成30年1月14日・28日
平成30年2月11日・25日 平成30年3月11日・25日
※毎回日曜 午前10時～12時開催

参加者数(延べ人数)：合計：295人

人数の内訳：児童生徒 150人／地域住民 20人／教職員 5人／その他関係者等 120人

協働した団体等：山瀧小学校、桜が丘小学校、山瀧中学校、高志中等教育学校

＊事業の概要

山瀧地区の小・中学校4校全てに参加協力を呼びかけ、小中学生のための将棋教室を開催します。

プロ棋士・藤井聡太の活躍で全国的に将棋人気が高まりを見せる現在、ゲームだけではなく歴史ある将棋の世界を教えることで、勝ち負けの勝負だけでなく礼儀が身に付き、相手を思いやる気持ちが醸成されることについて、子どもたち、父兄、地域住民にも知ってもらいたいと考え、事業を企画しました。

＊事業の成果・今後の見通し

平成29年12月より毎月2回、棋力別に作成したカリキュラムに沿ってクラス別に指導しています。

将棋の駒の扱い方、対局する際の礼儀「お願いします」「負けました」とハッキリ宣言するなど、マナーを守ることの大切さも教えています。Aクラス(高志中等教育学校・将棋部)は大人と対局する実力を有し馴染んできましたが、小学生のB・Cクラスは長期の指導の必要があります。将来は子どもたちが地域のクラブ(山瀧囲碁・将棋クラブ)のメンバーとなり、一緒に将棋を楽しみながら交流していきたいと考えております。

＊「子どもが真ん中！地域と学校でつくる学びの未来 提案型協働事業」のサポートを受けた感想

自治協議会のサポートなくしては立ち上げることができない事業でした。案内文書の作成や配布、各学校との交渉、不足用具の購入支援など、改めて地域の学校、児童、父兄、地域住民のコミュニケーションを図ることの有意性を感じることができました。

事業の写真



クラブ員と真剣勝負の中学生



対局の礼儀から学ぶ小学生たち

【参加者の声】

「将棋する相手がいなかったが沢山指せて良かった！」(小5男子)

「多くの子どもたちが参加してよかった」(保護者) / 「棋力別に指導できたのが良かった」(関係者)

中央区自治協議会「地域と学校部会」によるサポート

担当者氏名	サポートの内容
富樫 純一	各学校との交渉、案内文書の作成・配布、会場設営
田村 良三	案内書の作成・配布、会場設営、会場整理

事業目標達成のためにかかった経費：将棋セット、チラシ作成

✿ 中央区自治協議会「地域と学校部会」担当者コメント(感想、事業の講評など)

担当者氏名：富樫 純一(1号委員：山瀉地区コミュニティ協議会より選出)

子どもたちの指導は当初考えていたよりも結構大変でした。

棋力別に分けた指導で将棋が好きになり、第二の藤井聡太を目指す子どもが出てもらいたいと思います。

担当者氏名：田村 良三(1号委員：浜浦小学校区コミュニティ協議会より選出)

将棋教室に参加している小学生の将棋の知識に大きな差があり、指導に当たるサークルの方々は、ボードを使っての駒の動かし方から、詰め将棋の解説など工夫して指導されていました。

教室終了後も将棋に興味を持ち続け、学校でのサークル活動や地域の方々との交流を推進していただきたいです。

＊事業名： 親子でゴスペル！

申請者(実施主体)：光のページェントFamily ゴスペルクワイヤー

実施日時：【練習会】平成29年10月12日・19日・26日(木)
11月2日・9日・16日・30日(木)・22日(水) 12月4日(月)・7日(木)
午後7時～8時 計10回
【点灯式】平成29年12月8日(金) 午後6時30分～

参加者数(延べ人数)：合計 24人 ※当日は多くの方にご来場いただきました。

人数の内訳：児童生徒 9人／地域住民 10人／教職員 1人／その他関係者等 4人

協働した団体等：臼井 大輔(講師)、笹口校区コミュニティ協議会、ほっとハウス笹口、
光のページェント実行委員会

＊事業の概要

駅南の冬の一大イベント「NIIGATA 光のページェント」を盛り上げようと、点灯式当日にゴスペルを披露します。親と子プラス地域の方々と1つの目的に向かって協力し合うことで一体感が生まれ、1つのものを作り出すことで味わえる達成感を共有することを目指します。

様々な交流が希薄になりがちなこの笹口地区で、この光のページェントを通して、地域の良さを知り、世代間交流の中で子どもたちの自己肯定感を高めたいと考えました。

＊事業の成果・今後の見通し

10回の練習期間を通して、子どもたちの連帯感、大人同士のコミュニケーションが取れました。ゴスペルをキチンと歌えるようにする目的よりも、メンバーの一体感や、お互いに褒め合う場面も見られ、子どもも大人も含めた仲間意識が芽生えました。

本番はお互いに拍手をしたり、メンバーのお子さんを他の大人が褒めたりし、終わった後はみんなで労いの言葉をかけ合い、達成感を味わえました。今後の見通しとしては、次年度も再結成が可能となり、更には誘い合って、より充実したメンバーで披露することにつながるのではないかと思います。

＊「子どもが真ん中！地域と学校でつくる学びの未来 提案型協働事業」のサポートを受けた感想

CD-ROMを作成し、配付できたことにより10回の練習以外に自宅での練習も可能になり、より上達できたように感じています。使い勝手の良い練習場所を提供していただき、大変助かりました。

事業の写真



練習風景



当日の様子

【参加者の声】

「最高だった！」(中1) / 「良い声をしていると褒められて嬉しかった」(小4)

「ゴスペルは初めてだったけど本当に楽しかった」(保護者)

「もっとメンバーが増えるとよい」(保護者) / 「毎週の練習が楽しみだった」(関係者)

中央区自治協議会「地域と学校部会」によるサポート

担当者氏名	サポートの内容
渡部 一成	練習場所の提供サポート、地域へのつなぎ役
後藤 知恵	練習会の運営や点灯式当日のサポート

事業目標達成のためにかかった経費：講師謝礼

✳ 中央区自治協議会「地域と学校部会」担当者コメント(感想、事業の講評など)

担当者氏名：渡部 一成(1号委員：笹口校区コミュニティ協議会より選出)

NIIGATA 光のページェントの点灯式にふさわしいゴスペルに多くの来場者が感動されました。子どもと大人と一緒に歌うという姿は素晴らしく、まさしく「子どもが真ん中！地域と学校でつくる学びの未来」を実践するものでした。本番までに10回もの練習を重ねたことも評価したいです。来年度は更に多くの子どもたちが増えるような仕組みが必要ではないかと思いました。

担当者氏名：後藤 知恵(3号委員：上所小学校 地域教育コーディネーター)

ゴスペルの本番まであと2回という練習日に参加させてもらいましたが、地域にお住まいのプロの指導者のもと、とても楽しい雰囲気の中、親子で練習していました。

当日は雪の降る寒い日でしたが、練習の成果もあり大人も子どもも笑顔で歌っている姿に感動しました。地域の行事の中に生き生きとした子どもたちがいることは、その地域の未来が明るいなと感じました。

* 事業名： 小さな光の美術館

申請者(実施主体)： 笹口小学校 地域教育コーディネーター

実施日時： 平成29年11月24日(金)～12月25日(月) (光のページェント点灯式12/ 8 (金)含む)

参加者数(延べ人数)： 合計 77人 ※当日は多くの方にご来場いただきました。

人数の内訳： (主に)児童生徒 7人／教職員 20人／その他関係者等 50人

協働した団体等： まちごと美術館ことごと、笹口校区コミュニティ協議会、ほっとハウス笹口、光のページェント実行委員会

* 事業の概要

6年生が障がい者アートの素晴らしさを目の当たりにし、是非この魅力をもっと多くの方にしてもらいたいと発案しました。校内の地域型ふれあいスクール「ほっとハウス笹口」に展示し、更に12/8のNIIGATA 光のページェントにも「小さな光の美術館」として、6年生が絵の紹介等の運営を行います。

多様性を受け入れられる子どもたちの未来づくり、社会性の高いコミュニティスペースにより多世代の交流を深める、差別やいじめをなくすなど、様々な成果を目指しました。

* 事業の成果・今後の見通し

作品の紹介の作成にあたっては、非常にデリケートな部分の文言を考えたり、その立場になって考えたりすることで、子どもたちの視野が広がったように感じます。「ほっとハウス笹口」に掲示することで、地域の方にも紹介でき、たくさんの方々に観ていただくこともできました。

当日の点灯式では、新潟市長・中央区長にも観ていただき、上記の件を達成できました。今後もこのような事業を実行していきたいと思えます。

* 「子どもが真ん中！地域と学校でつくる学びの未来 提案型協働事業」のサポートを受けた感想

子どもたちの発案をご快諾いただき、子どものやる気を削ぐことなくスムーズに話を進めることができました。当日以外にも地域の方々からお褒めの言葉をいただき、子どもたちも自己肯定感を高めることができたのではないかと思います。

次年度の6年生も新たな取り組みができると良いと思えます。

事業の写真



ほっとハウス笹口での展示



光のページェント当日のテント内での設置

【参加者の声】

「当日まではほぼ休み時間を削って話し合ったりして大変だったけど、当日いろんな人に『この絵すごいね!』と言ってもらって、少しは作家さんのお役に立てたのかなと思ったら楽しかった。」(小6男子)

「始めは自分たちで考えたことが実現するとは思っていなかったけど、当日すべて成功させることが出来て本当に嬉しかったし、お客さんの言葉を聞いて更にやって良かったと思った。」(小6女子) / 「発案が素晴らしい。」「作家にとっても大変嬉しいこと。有難う。」(関係者)

中央区自治協議会「地域と学校部会」によるサポート

担当者氏名	サポートの内容
渡部 一成	展示場所の提供サポート、まちごと美術館ことことや学校とのつなぎ役
後藤 知恵	事業企画に対するアドバイス、美術館運営のサポート

事業目標達成のためにかかった経費：美術作品の搬入設置関係の委託料

✿ 中央区自治協議会「地域と学校部会」担当者コメント(感想、事業の講評など)

担当者氏名：渡部 一成(1号委員：笹口校区コミュニティ協議会より選出)

総合学習で肥田野委員から話を聞いた6年生が、障がいのある人が描いた絵を多くの皆さんから観てもらおうという発想が素晴らしいと感じました。点灯式当日には大勢の来場者が「小さな光の美術館」に立ち寄り、称賛の声を多数いただき、当初の目的が達せられて大成功でした。

肥田野委員、団体、地域、学校が一つとなり、点灯式に花を添えました。まさしく「子どもが真ん中！地域と学校でつくる学びの未来」であったと思います。来年度は新6年生の発想に期待します。

担当者氏名：後藤 知恵(3号委員：上所小学校 地域教育コーディネーター)

地域の方のお話を受けて、6年生が自分たちにできることを考え、実行できて良かったです。障がい者アートを多くの方に広めるために、笹口地区の特徴である「ほっとハウス」や「光のページェント」を活用でき、成功したと思います。

＊事業名： 子どもプログラミングチャレンジ in 白山

申請者(実施主体)：白山小学校ふれあいスクール「かがやきランド」

実施日時：平成29年12月9日・16日(土) 午前9時～11時30分
平成30年1月20日・27日(土) 午前9時～11時30分
平成30年3月10日(土) 午前9時～11時30分

参加者数(延べ人数)：合計 188人

人数の内訳：児童生徒 145人／地域住民 9人／教職員 14人／その他関係者等 20人

協働した団体等：新潟青陵大学、白山小学校

＊事業の概要

AIやIoTといったテクノロジーが現代社会で当たり前になり、子どもたちもスマートフォンなどを利用して、プログラミングの恩恵を受けて生活しています。世の中にはプログラミングで動いているものが多く存在していることから、プログラミングを知っていることは将来大いに役立つと考え、子どもたちにプログラミングを学ぶ機会を与えたいと考えました。本事業では、子どもたちがプログラミングを知るきっかけとして、プログラミングソフトを使ってアニメーションやゲームを作成したり、ロボットを操作させたりして興味をもってもらい、地域住民との交流のツールとすることを目的としました。

＊事業の成果・今後の見通し

プログラミングへの子どもたちや保護者の関心が非常に高く、規定人数を超える人気となりました。

アニメーション作りやロボット操作も大変盛況で、実施後のアンケートでも肯定的な評価がほとんどでした。次年度以降も定期的に本事業を実施し、地域住民は元より、他の学校や大学、民間企業などとも連携しながらプログラミングに慣れ親しむ機会を提供していきたいと考えています。

＊「子どもが真ん中！地域と学校でつくる学びの未来 提案型協働事業」のサポートを受けた感想

子どもたちの活動しているとき、楽しそうな笑顔がたくさん見られました。また、「プログラミング楽しかったー！」「次はいつ？」「もっとやりたい！」といった子どもたちの声をたくさん聞くことができました。地域の方も子どもたちの活動に入り、一緒に考えたり、できた喜びを分かち合ったりして温かい雰囲気いっぱい活動になりました。中央区自治協議会のこの事業のサポートのおかげで、充実した内容でプログラミングの事業を提供することができました。本当にありがとうございました。

事業の写真



プログラミング体験に興味津々



初めてのタブレットPCに歓声が上がる

【参加者の声】

「初めてだったけど、大学生や先生が丁寧に教えてくれてわかりやすかった」(小4男子)

「児童が教え合っている姿が良かった」(保護者) / 「子どもたちが笑顔で楽しそうだった」(関係者)

中央区自治協議会「地域と学校部会」によるサポート

担当者氏名	サポートの内容
井上 基之	新潟青陵大学、小学校、ふれあいスクールのつなぎ役
南雲 保子	ふれあいスクールとの調整

事業目標達成のためにかかった経費：教材、タブレット

✿ 中央区自治協議会「地域と学校部会」担当者コメント(感想、事業の講評など)

担当者氏名：井上 基之(4号委員：公募委員)

プログラミング教育について、自治協委員も勉強しながら事業開始に向けて支援に関わりました。また、委員がサポートすることで行政や大学、ふれあいスクールとの協働がスムーズに進められました。

参加人数も多く、今後の展開への期待が高まります。また、子どもたちが楽しそうにコンピュータを操作し、学年の上下関係なく教え合う姿も印象的で、学びの未来を垣間見ることができました。

担当者氏名：南雲 保子(2号委員：新潟市小中学校PTA連合会より選出)

当初プログラミングと聞いて、小学生には難しいのではないかと不安に感じました。しかし「プログラミング教育」は言語の使い方を覚えることではなく、プログラミングを通じて物事には手順があり、手順を踏むと物事をうまく解決できる。といった論理的に考えていく力をつけさせる教育だということを知りました。地域と学校でつくる学びの未来を、身をもって体験できたと思います。

＊事業名： 桜が丘プレミアムフライデー

申請者(実施主体)：桜が丘小学校 地域教育コーディネーター

実施日時：平成30年2月16日(金)・3月2日(金)

参加者数(延べ人数)：合計：156人

人数の内訳：児童生徒126人 / 地域住民10人 / 教職員20人

協働した団体等：山潟地区コミュニティ協議会

＊事業の概要

- ・小学校の空き教室を利用して、金曜日の放課後に児童と地域住民(主にお年寄り)が、オセロや囲碁・将棋などの昔遊びを通じた多世代交流を図ります。
- ・児童の社会性や道徳性を高めるとともに、参加される地域住民の生きがいや自己肯定感も高めていきます。
- ・地域と学校のコミュニケーションを図る場としても活用していきます。

＊事業の成果・今後の見通し

- ・児童の参加が、1回目が52人、2回目が74人で22名(約40%)増となりました。実施日時や内容の手軽さなどが増加の一因と考えられました。
- ・終了後には、ほぼ全参加児童が「楽しかった！次回も参加したい」と答えていました。
- ・地域住民(主にお年寄り)からは、「子どもとのふれあいが楽しい」「オセロやトランプをすることで頭の体操になる」「子どもたちが片付けまできちんとしていて素晴らしい」といった好意的な声をいただきました。
- ・概ね良好な評価を得ているので、次年度は学校行事や授業等と調整しながら、月1回程度の開催を行っていきたいです。

＊「子どもが真ん中！地域と学校でつくる学びの未来 提案型協働事業」のサポートを受けた感想

- ・他校や他自治体の実践についての情報提供が、当校の計画・実践に大変役に立ちました。
- ・案内文書のサンプル提供が、当校の案内文書作成・配付に大変参考になりました。

事業の写真



地域の方に教えてもらって、囲碁初挑戦



子どもと地域の人も活動に大満足！

【参加者の声】

「次回もぜひ参加したい！」（参加児童全員）

「カルタがおもしろかった！」（小2女子）「将棋だけでなくオセロもしたい！」（小3男子）

「子どもとオセロをして頭の体操になった！」「片付けまできちんとしていて感心！」（地域住民）

中央区自治協議会「地域と学校部会」によるサポート

担当者氏名	サポートの内容
富樫 純一	お年寄りとの交流活動における人材発掘のサポート
後藤 知恵	チラシ作成、補助金申請方法のサポート

事業目標達成のために購入したもの：遊具、配付チラシ用の紙

✿ 中央区自治協議会「地域と学校部会」担当者コメント(感想、事業の講評など)

担当者氏名：富樫 純一（1号委員：山潟地区コミュニティ協議会より選出）

地域と学校を結び付ける素晴らしい企画だと思いました。地域住民の協力を得ながら、長期の視点に立って継続していくことが肝要であると感じました。

担当者氏名：後藤 知恵（3号委員：上所小学校 地域教育コーディネーター）

子どもたちがお年寄りと関わりながら、生き生きして遊んだあと、たたみや机、遊び道具など最後まで率先してきちんと片付けている姿が印象的でした。こういう居場所づくりのためにはどうしても道具等が必要になりますが、自治協の事業で少しでもお役に立ててよかったです。

＊事業名： 子どもと創る四つ葉地域交流事業

申請者(実施主体)：上所小学校 地域教育コーディネーター

実施日時：平成30年1月12日(金) 午後1時10分～1時35分 「歌を楽しむ会」
平成30年2月5日(月) 午後1時10分～1時35分 「手話ダンスを楽しむ会」
平成30年2月17日(土) 午前9時～10時30分 「茶の湯体験会」

参加者数(延べ人数)：合計：136人

人数の内訳：児童 113人／地域住民 14人／教職員 5人／その他関係者等 4人

協働した団体等：鳥屋野地区公民館、上所小学校

＊事業の概要

地域に住む方々（公民館サークルなど）が学校内に来て、自分たちの趣味を披露したり、子どもたちと一緒に活動します。（30分休み時間、昼休み時間）

学校に入る機会のなかった地域の方が入ることで、学校への関心が向き、応援してくれるようになったり、小学生と触れ合うことで笑顔になることを目指します。子どもたちはたくさんの大人に支えられて自分たちが新しい体験をし、知り合いが増えることを目的としています。

＊事業の成果・今後の見通し

日頃、小学生とふれあうことのない年配の方々は、自分の得意なことを子どもたちの前で披露することで、子どもたちと一緒にとても楽しそうにしている姿が見られました。実施3回のうち2回は大雪で車を動かせない日でしたが、近くに住む方ばかりなので歩いて来てもらうことができました。

当日の司会や校内の案内、公民館に貼るポスター作製は、6年生の地域交流委員会が行いました。

今後も公民館と情報交換を行い、学校近くに住む方々が子どもたちと趣味を通してふれあい、喜んでくれるような機会を作っていきたいと思います。

＊「子どもが真ん中！地域と学校でつくる学びの未来 提案型協働事業」のサポートを受けた感想

自治協議会からアドバイスをいただき、ポスターを子どもたちに描いてもらうことで、印刷費をかけずに実現できて良かったです。また、6年生の地域交流委員会の子どもたちが、この事業での活動が認められ、ライオンズクラブの双葉賞を受賞したことも、子どもたちにとっては良い思い出になりました。

本当にありがとうございました。

事業の写真



異学年が混ざって楽しめました わかりやすい手話、覚えたよ お茶はとてもニガイなあ

【参加者の声】

「歌声がきれいでびっくりした」(小1女子) 「習った手話をクラスの人に教えてあげた」(小2女子)

「子どもたちが楽しそうに一緒に歌ってくれて嬉しかった」(歌の会関係者)

「親子でこういう時間を過ごせてよかった」(茶道体験の保護者)

中央区自治協議会「地域と学校部会」によるサポート

担当者氏名	サポートの内容
後藤 知恵	鳥屋野地区公民館との調整、小学校のつなぎ役
大滝 則子	開催当日の運営サポート

事業目標達成のためにかかった経費：床マット、ラジカセ

✿ 中央区自治協議会「地域と学校部会」担当者コメント(感想、事業の講評など)

担当者氏名：後藤 知恵(3号委員：上所小学校 地域教育コーディネーター)

今回、公民館の方と話をした際に見えてきたことは、サークルの年配の方々は、自分たちの趣味を披露したいとっていて、そういう場を求めているということでした。学校に入る機会のない地域の方々が、子どもたちとふれあい、楽しむ活動は、子どもにとってもよい体験になり、地域の方にとっても生きる力にもなることだと思うので、こういう事業が続いていくといいなと思います。

担当者氏名：大滝 則子(3号委員：姫路大学教育学部 非常勤講師)

手話がスッと心と体に入ってきました。「手話にはそれぞれの動作に意味のあること」と楽しく、わかり易い説明であったため、みんな笑顔で元気に取り組みました。地域の方々から学校に入っただけ、共に子どもを育てていく、大切な事業であると感じました。

* 事業名： 子育てサロン&茶の間

申請者(実施主体)：みんなで子育てほっとカフェ

実施日時：平成29年12月7日から毎週木曜 午前10時30分～午後2時

参加者数(延べ人数)：合計：140組

人数の内訳：児童生徒 各回10人 / 地域住民 各回3～5人 / その他関係者等 各回5人

協働した団体等：笹口校区コミュニティ協議会、ほっとハウス笹口、笹口小学校地域教育コーディネーター、地域包括支援センター宮浦東新潟

* 事業の概要

小学校併設の地域ふれあいスクール「ほっとハウス笹口」で子育て世代の親子の居場所を週1回開催します。

小学生や地域の方が集える場なので、小学生は赤ちゃんと触れ合ったり、子育て世代は地域の方からアドバイスをもらえたり、幅広い多世代交流が期待できます。互いに良い影響を与え合えるような居場所の活用を行います。

* 事業の成果・今後の見通し

スタート当初から、子育て中の親子の参加者があり、思った以上にニーズの高さを感じました。自治協委員の方のサポートを通じて、小学校、地域の方々、地域包括支援センター、地域教育コーディネーターなど、多方面での協力を得ながら運営できています。転勤者の多い地域ならではの子育て支援の一環として、今後も広まっていくことを期待しています。

* 「子どもが真ん中！地域と学校でつくる学びの未来 提案型協働事業」のサポートを受けた感想

運営のノウハウについては、専門的なアドバイスを頂きました。

さらに、笹口校区コミュニティ協議会のご協力を頂き「笹口コミ協だより」の掲載やチラシの配布など、沢山の地域の方々に「ほっとカフェ」を知ってもらうことができました。沢山の方々のお力添え、ご理解のもとで「ほっとカフェ」が成り立っています。本当にありがとうございます。

事業の写真



小学生と赤ちゃんが楽しく交流



毎回多くの親子が参加

【参加者の声】

「小学校では1年生までしかいないけど、もっと小さい赤ちゃんに触れ合えるのがとってもうれしかった。」「お母さんたちもみんな優しく、そして赤ちゃんたちもかわいすぎていつも楽しかった。また参加したいです。将来は自分の赤ちゃんと一緒にほっとカフェに行きたいと思いました。」(小6女子)

中央区自治協議会「地域と学校部会」によるサポート

担当者氏名	サポートの内容
渡部 一成	地域コミュニティ協議会のつなぎ役、周知方法のノウハウの提供
藤瀬 竜子	子どもと地域の方との多世代交流について、ノウハウの提供

事業目標達成のためにかかった経費：チラシ作成

✿ 中央区自治協議会「地域と学校部会」担当者コメント(感想、事業の講評など)

担当者氏名：渡部 一成(1号委員：笹口校区コミュニティ協議会より選出)

転勤族の多い笹口地域において、子育て中の若いお母さんたちのために立ち上げた「ほっとカフェ」です。ほっとハウスに遊びに来る小学生、おじいちゃん・おばあちゃんも積極的に参加する交流の場になっています。笹口に住んで良かったという声も聞けるすばらしい居場所に成長していくものと思い、地域でもこの芽を育てる支援をしたいと考えています。

担当者氏名：藤瀬 竜子(2号委員：新潟青陵大学 福祉心理学部 准教授)

子育て中は、日々の子どもの成長と一緒に喜んでくれたり、たわいもない事を聞いてくれたりする「人や場所」があることがとっても助けになります。おじいちゃん、おばあちゃん世代との交流でママも時には「娘」に戻って「ほっ」とし、大人や小学生は赤ちゃんに癒され「ほっ」とし、赤ちゃんはみんなに見守られ「ほっ」とする。そんな「ほっとカフェ」、今後も応援していきたいです。

＊事業名： アート活動を通じた障がい者と小中学生の交流

申請者(実施主体) : Magical Rainbow

実施日時 : 平成30年3月3日(土) 午前11時～午後4時

参加者数(延べ人数) : 合計：140人

人数の内訳 : 児童生徒・地域住民 125人 / その他関係者等 15人

協働した団体等 : アートキャンプ新潟、松島菜月(アートキャンプ新潟所属)、社会福祉法人かがやき福祉会、株式会社五頭、上所・白山・鏡淵・新潟・日和山の各小学校(チラシ配布)

＊事業の概要

アート活動を通じて障がい者と子どもたちとの交流を図ろうと、NEXT21のアトリウムで「障がいのある人もない人もみんな集まって桜の花を咲かせよう」と手形を使ったアート作品を造るワークショップを開催します。障がいのある人もない人もみんなが楽しい！繋がっている。共生できる社会の架け橋になりたい。—そんな思いでこの事業を企画しました。

＊事業の成果・今後の見通し

多くの参加者のおかげで、色とりどりの手形の花が咲き、一足早く春が来たようでした。出来上がった作品は、NEXT21のアトリウムにも飾っていただき、多くの方の目に触れてもらうことができました。

近隣の小学校に案内チラシを配布しましたが、思ったよりも児童の参加が少なかったのが残念でした。また、何をやっているのか、どうやったら参加できるのかが分かりづらかったという意見もあり、次回は工夫をしていきたいです。

この事業をきっかけに、今後は各学校での総合学習や文化祭、ふれあいスクールなどでの事業実施を進めていきたいです。

＊「子どもが真ん中！地域と学校でつくる学びの未来 提案型協働事業」のサポートを受けた感想

この度は、本当に事前準備からワークショップ当日まで、色々とサポートしていただきありがとうございました。今後に繋げる活動をしていくために、教育委員会の後援がなければチラシが配布できないことや、当日までの段取りなど色々と学ばせてもらうことが多かったです。今後の活動に繋げていくためにとても参考になりました。ありがとうございました。

事業の写真



木の幹を描く松島さん

完成した作品

親子で手形に挑戦！

【参加者の声】

「皆さん手形だったけど子どもがまだ小さく、おんぶしていたので足形にしました。可愛い足形が記念になってうれしいです。」（赤ちゃんの母親）

「チラシを見てきました。楽しかったです。」（小学生）

「普段はやれないことだけど、子どもに戻ったようで楽しい」（成人男性）

中央区自治協議会「地域と学校部会」によるサポート

担当者氏名	サポートの内容
小林 悦子	周知パンフレットの作成
大滝 則子	学校・障がい者支援施設等へのつなぎ役

事業目標達成のためにかかった経費：ワークショップ運営費、リーフレット、キットパス、案内チラシ

✿ 中央区自治協議会「地域と学校部会」担当者コメント（感想、事業の講評など）

担当者氏名：小林 悦子（2号委員：新潟市中央区・地区民生委員児童委員協会長連絡会より選出）
 キットパスを使用して桜の花を咲かせるという企画は、初めての取り組みです。幼稚園児をはじめとして、大人までの参加者は「とても楽しい」と言う感想でした。お手伝いしている方もうれしくなりました。今後、学校や施設で使っていただける事業にしたいです。

担当者氏名：大滝 則子（3号委員：姫路大学教育学部非常勤講師）
 子どもも大人も、障がいのある人もない人も、一緒に楽しい体験をし、ワクワク感や喜びを体験する活動を提供していこうとするMagical Rainbowの提案事業は、第1回をNEXT21の1階フロアを使って行われました。手形アートは、参加した全員が笑顔になれる楽しい催しでした。子どもより大人が夢中になり自己解放ができる場でもあると感じました。今後は、学校や施設でも開催していきたい事業です。学校に広く紹介していきたいと計画しています。

＊事業名： 地域みんなが見守り隊

申請者(実施主体)：白山小学校こども見守り隊

実施日時：平成30年9月1日(土)開始

参加者数(延べ人数)：合計：約880人

人数の内訳：地域住民 約600人／教職員 約30人／PTA 約250人 ※配布数による

協働した団体等：白山小学校、白山小学校PTA、白山校区コミュニティ協議会、
白新地区青少年育成協議会ほか

＊事業の概要

白山小学校こども見守り隊のオリジナルバンダナを作成して地域住民やPTA関係者に配布し、できるだけ多くの方々から日常的に見守り活動に参画いただき、地域の連帯感の醸成と子どもたちの見守り体制の強化を図ります。「誰が見守り隊なのかわかる目印を身に付けることで、緊急時などに助けを求めやすくする」「目印があることであいさつの促進にもつながり、犯罪予防の効果をねらう」「女性でも気軽に身に付けられる」などの理由から、バンダナを選定しました。

＊事業の成果・今後の見通し

この事業を通じた大きな成果として「白山小学校こども見守り隊の活動が周知できたこと」や「PTAも見守り隊の一員であるという意識醸成につながったこと」などが挙げられます。

反面「未だ身に付けたことがない」という声も配布先から聞かれており、より一層の活用に向けた普及・啓発は今後の課題といえます。

＊「子どもが真ん中！地域と学校でつくる学びの未来 提案型協働事業」のサポートを受けた感想

白山小学校の校長先生や教頭先生、PTAとの橋渡しをしていただいたことで、非常にスムーズに事業を進められました。また、バンダナのデザインを自治協委員に担っていただいたが、シンプルかつ目を引くデザインにさせていただいて感謝しています。

見守り隊の中にも、ジャンパーやベストだとなかなか気恥ずかしくて着用できないという声があったため、気軽に身に付けられるものが導入できて良かったです。PTAにも協力してもらいやすくなったことは大きな成果だと感じています。

事業の写真



白山小学校の校章をいれたシンプルなデザイン



カバンにつけて見守り活動中

【参加者の声】

「バンドナを身に付けていることで、子どもたちが迷わずに挨拶をしてくれた」(PTA)
 「あまり通学路では見かけない。校長先生からは見かけたら挨拶するよう言われた」(小5男子)
 「バンドナは気軽に身に付けられて良いと思う。デザインもわかりやすくて良い」(こども見守り隊)

中央区自治協議会「地域と学校部会」によるサポート

担当者氏名	サポートの内容
井上 基之	バンドナのデザイン、学校・PTA とのつなぎ役
南雲 保子	学校・PTA・コミュニティ協議会とのつなぎ役

事業目標達成のためにかかった経費：バンドナ作成

✳ 中央区自治協議会「地域と学校部会」担当者コメント(感想、事業の講評など)

担当者氏名：井上 基之(4号委員：公募委員)

新潟市西区で発生した痛ましい事件を受け、新潟市内の小学校で通学路の緊急総点検が実施された際に、白山小学校こども見守り隊の方から本事業の発案がありました。最初は「見守りの担い手がない」「ジャンパーは恥ずかしいという声がある」などの小さな呟きでありましたが、こうした形で事業をサポートできたことは大きな成果であり、子どもたちの安心安全につながることを願っています。

担当者氏名：南雲 保子(2号委員：新潟市小中学校PTA連合会より選出)

何においても手軽さが求められる時代にバンドナは適していたと思います。そして今回の事業により、保護者は「子どもは親だけで育てているのではなく、地域全体で育てられているのだ」ということを再認識出来る良いきっかけになったのではないのでしょうか。このような事業が広く伝わる事を願います。

＊事業名： 新潟じまんたんけんたい

申請者(実施主体)：青陵大学COMECCO☆(こめっこスター)

実施日時：第1回：平成30年10月30日(火)午後1時30分～3時
第2回：平成30年11月20日(火)午後1時～3時
第3回：平成31年 2月 5日(火)午後1時30分～3時

参加者数(延べ人数)：合計：84人

人数の内訳：児童生徒 77人／地域住民 2人/教員 3人／その他関係者等 2人

協働した団体等：浜浦小学校、近隣の商店

＊事業の概要

若い世代が、地域の産物やそこに住む人々に魅力を感じることは、これからの新潟の活力になります！本事業は、大学生が小学生とともに、新潟の“自慢”を再発見する事業です。浜浦小学校の3年生の子どもたちと3回に渡って、新潟自慢である「米粉」について「調べる・聞く・まとめる」の活動を行います。

＊事業の成果・今後の見通し

大学生も小学生も、新潟の特産物の魅力を知ることができました。これからは、次世代の私たちが、新潟の特産物を大切にしていきたいです。また、これまで私たち青陵大学生は、大学に通学しながらもこの地域の方々と触れる機会がほとんどありませんでしたが、この事業を通して、近隣の小学校、地域の商店と触れる機会をいただくことができました。小学生と大学生と一緒に活動したことで、小学生にとって未来モデルに触れる機会にもなったらよいなと願います。今後も、このように地域の魅力を再認識する活動を小学生や地域の方と共に続けていけたらありがたいです。

＊「子どもが真ん中！地域と学校でつくる学びの未来 提案型協働事業」のサポートを受けた感想

「思い」があっても、つないでくださる方、受けいれてくださる方がなければ、この取り組みは成立しませんでした。また、交通費を補助していただいたことで、時間を有効に使うことができ、授業との両立も可能になりました。この全てをサポートしていただけたことで、今回の活動ができました。「協働」のすばらしさを実感しました。後輩にもつなげていきたいです。

事業の写真



米粉の「変身」を一緒に調べました



地域のお店に調査に行ったよ！

【参加者の声】

「学生さんと一緒に調査したら、どのお店でどんな米粉商品が売られているかがわかった」(小3男子)

「まとめるときに、米粉のよさが伝わるように、アドバイスをもらえてよかった」(小3女子)

中央区自治協議会「地域と学校部会」によるサポート

担当者氏名	サポートの内容
田村 良三	浜浦小学校に企画説明、つなぎ役
高岡 美代子	当日運営のサポート
藤瀬 竜子	学生とのつなぎ役、周知チラシの作成

事業目標達成のために購入したもの：交通費、名札ケース

✿ 中央区自治協議会「地域と学校部会」担当者コメント(感想、事業の講評など)

担当者氏名：田村 良三(1号委員：浜浦小学校区コミュニティ協議会より選出)

小学生が新潟の自慢である「お米」に着目し、その「米粉」の利用法などを図鑑やインターネットで調べ、地域の店舗での聞き取り調査も行いました。少々難しいテーマでしたが、大学生のサポートを受けて進められ、地域の再発見にも結びつきました。今後とも同様な活動が行われ、小学校と大学との連携が継続することを望んでいます。

担当者氏名：高岡 美代子(2号委員：新潟市中央区体育協会より選出)

新潟市での特産物、その中で最も身近な米がごはん以外にどんな形で生活に活かされているのか調べてみようという事でのスタートでした。

地域、世代を超えて同じ事柄を共有し、行動できるって本当に素晴らしいと思います。今後もこのような活動が各方面に発展することを願っています。

＊協働に至らなかった事業一覧

事業名：公園のトイレ周辺の草刈り

実施主体：PIT新潟越光の会

事業の概要：中央区沼垂にある芳原公園の草刈りの頻度が減少し、子どもたちのために草刈りを実施したいとのことで提案があった。

部会の関与：座長が提案者からヒアリングを行った上で、沼垂小学校区コミュニティ協議会に情報提供するとともに、中央区建設課につないだ。また、提案者に対し、公園の整備をシルバー人材センターに委託している事例の情報提供を行った。

事業名：へらぶな放流事業

実施主体：女池小学校ふれあいスクール「女池っ子ランド」運営主任

事業の概要：鳥屋野潟周辺の小学校の児童が自然の大切さを体験して、将来成長した魚や鳥屋野潟の食文化を知ってもらうため、へらぶな稚魚250kgを子どもたちの手で鳥屋野潟に放流させたいとのことで提案があった。

部会の関与：当初、小学校の総合学習の時間を活用して実施したいとの希望であったが、中央区教育支援センターとの協議により見送り。土曜日のふれあいスクールでの実施を検討したが、稚魚輸送の日程を動かすことができず、最終的には6年生の各クラス代表者3名ずつがタクシーで行くことになり、自治協議会としての協働は叶わなかったものの、自治協委員が個人的に同行した。最終的には申請取り消しとなったが、委員が何度も足を運んだことや、申請書の書き方に助言したことに感謝の言葉をいただいた。

事業名：白新地域丸ごと安心見守り事業

実施主体：鏡淵小学校PTA会長

事業の概要：民間事業者が提供する「みまもりタグ」サービスを活用し、コミュニティセンターや学校などを拠点に感知器を設置するとともに地域住民がサポートすることで見守り活動を効果的、効率的に実施したいとのことで提案があった。

部会の関与：「みまもりタグ」に対し、保護者や学校から需要があるか確認をするためアンケート調査を提案した。アンケートの結果、保護者全員の同意が得られないことから実施は難しいと判断し申請取り消しとなった。



【地域と学校部会】

井上 基之（座長） 渡部 一成（副座長） 南雲 保子（副座長）
田村 良三 富樫 純一 小林 悦子 高岡 美代子
藤瀬 竜子 大滝 則子 後藤 知恵

【事務局・問合せ先】

中央区自治協議会（新潟市中央区役所地域課）
電話 025-223-7023 FAX 025-223-3660
メール chiiki.c@city.niigata.lg.jp